第４回

今後の道路整備の方向性に関する検討委員会

日　時　　平成18年3月31日（金）10：00～11：30

次　　第

１．開会

２．議事

(1)第３回検討委員会でのご意見とその対応

(2)まとめ

・委員会の経過と主なご意見

・市民ニーズから見た今後の道路整備におけるテーマ･方向性(案)

・報告書(案)について

３．これまでの検討委員会を通じて各委員からの感想

４．閉会

議　事　要　旨

１．全体を通して

◆融雪剤（ＣＭＡ）などについて

・環境にやさしいＣＭＡを今後増やす傾向にあるといったことを触れると、市民は安心するのではないか。
　→ＣＭＡは非常に高価であり、現状の使用量が最大と考えている。
　→現状の融雪剤散布において、懸念された下水処理場への影響や街路樹への影響は出ていない。よって、諸外国で行っている中和剤の散布は行っていない。
・環境に良いものを使っていくということは、札幌市が環境に配慮している都市ということでアピールしても良い。
・歩道上の滑り止め用の砂はどうやって清掃するのか。
　→目立つところは（人力で）清掃をしている。

◆新しいテーマ及びテーマが意図する「想いが伝わる」について

・具体化していく手段が十分かどうかの懸念があるが、非常に新鮮で良いテーマとなった。
・テーマは良いと考える。情報公開は一方的な発信で終わることが多いので、市民との双方向での情報交換ができる仕組みができれば良い。
・札幌市には、市民の問い合わせや苦情を受けるセンターがあったと思うが、苦情についてはどう処理しているのか。
　→苦情等は集計して関係部局に送られてくる。それをもとに今後の施策に反映するシステムづくりをしている。また、公表もしている。
・すすきの地区と定山渓地区での取り組みについてはもっと詳しいものにしたほうがいい。
・「伝え方・つなげ方」のところに関係機関との連携体制についての文言を入れた方が良い。
・道路整備について、国内外の事例とか雰囲気が伝わるイラストや写真があった方が、見た人のイメージがしやすく内容が伝わりやすい。こういうやり方があるとか、これもいいなという写真を入れても良い。
　→例えば、安心歩行エリアで住民とワークショップをしたり、まち歩きをしたりした時の写真があるので入れたい。）
・安心歩行エリアについては、概念図やイラストを入れていただきたい。

◆道を利用するルールについて

・自分の立場からみると、「円滑」に関する部分が少し足りないと思う。歩行者や自転車

なども含め、道を利用する側の心構え、ルール、責務といったものをもう少し入れても良いと思うが、全体として良い内容にまとまっている。
・法律ではない使う側のルールをもう少し入れ込んだ方が良い。

◆本報告の公開・提示方法について
・本報告の配布先はどこか。簡潔なものをいろいろなところに配布してほしい。町内会にも配ってほしい。
・まずは見やすいものを作成し、特に小中学校に配ってはどうか。
・本当に理想のイラストを全面に出して、将来の道路像としてできるできないは別にしても、そういうイラストを使うことによって、イメージ的にアップするというのも非常にいいことだなと思う。スピードが出せないような道路構造などの広報もやっていけば、非常にＰＲアップになる。

◆その他
・市民向けのところには、やっぱりマナーを守ってくださいみたいなことを、強く思いを伝えていいのではないかと思う。公共交通の利便性も向上はしているので、しっかり使ってほしいということを言ってもいいかなと思う。
・インフラに関する説明、取扱説明書みたいなものを利用者というか市民に向けて作るべき。どうしてこういうふうになっているのかとか、そういうことがなかなかわからないので、その辺は想いを伝えるという部分なので、行政もその辺が重要だと考える。

３．これまでの検討委員会を通じた各委員からの感想
・民間の方がこれほど多い会議は初めてであり、それらの方々の話が聞けて非常に良かった。
・個人的にも非常に勉強になる会議であった。情報の共有化は非常に重要である。
・各委員の方々が出された意見だとか、非常に勉強になった。特に市民アンケートの結果などは、我々の生活の上で非常に参考になるし、いい経験をさせてもらった。今後は、全体を通した道路を中心とした交通体系のあり方みたいなものの検討をしていかなければならない。
・市民は道には興味ないが、道の駅には興味がある。先ほどの定山渓の地域づくりのレポートを見ていると、道の駅構想があるというふうに書かれていたので、これは千載一遇のチャンスだなと思う。つまりこの定山渓での道の駅づくりにおいて、札幌市民の道とか道の駅に対する興味、関心を喚起させるということは、道とは何ぞやということを市民の方々に考えていただけるいいチャンスである。道の駅は、一般の札幌市民の意見もきちんと聞きながら、あるいは巻き込みながらつくってほしい。
・車主体である道路から、人をどのように道路の中で生かしていけるかといったことを非

常に強く感じた。行政だけにまかせず、行政と市民がさらに連携をとってやっていけば、ＮＰＯの活動とかもうまくリンクさせていく場面がさらに増える。時代の変化に合わせてこういう会議が継続、その場に応じてつくられていくことを望みたい。

・子供たちが、この道通ったよねと思えるような道ができて、そのような情緒のある人間がどんどん育っていくような札幌市になってくれるといい。

・ニーズとか課題をまとめることに関して、一通りデータから議論できたということは大事なことである。さらにそれをどう伝えていくかというような話が、テーマも含めて議論になったのは意義がある。

・「想いが伝わる。想いをつなげる。」という非常に目新しいテーマが出てきた。テーマをつくっただけで終わりにしないように、行政の方がこのテーマをかみしめていただきたい。テーマというのは、意外にこういうものを頭に乗せると、今後の書きぶりも少しずつ変わってくるのでたいせつにしてほしい。

・本報告書の内容は、当初想定していなかった以上の、非常に広範囲で深みのあるものだと考えている。その場所、場所に応じて、必要に応じて部分的に切り出して、わかりやすく説明するという方法が一番大事なことである。「想いが伝わる。想いをつなげる。」という、この検討委員会の想いを伝えるように、つながるように努力をしていきたいと考えている。